

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭支援論		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 柏尾 可奈子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年		必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>家庭の意義とその機能について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。併せて、近年多様化する子育て家庭のニーズの把握と子育て家庭の支援体制について把握する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保護者支援のあり方を家庭という視点から明らかにしていく。問題を抱える家庭に対する支援等、社会的家庭に関する基本的な知識、家庭支援の専門性等について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 					

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 子どもの家庭支援の意義と必要性
- 2 子ども家庭支援の目的と機能
- 3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
- 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
- 5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
- 6 子どもの育ちの喜びの共有
- 7 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
- 8 保育士に求められる基本的態度
- 9 家庭の状況に応じた支援
- 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
- 11 子ども家庭支援の内容と対象
- 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援
- 13 地域の子育て家庭への支援
- 14 要保護児童およびその家庭に対する支援
- 15 子育て支援に関する課題と展望

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
新基本保育シリーズ
「子ども家庭支援論」 中央法規

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
試験・授業態度・提出物・実践

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの特別支援		授業の種類 講義		授業担当者 小田 良秀
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年		必修・選択 選択必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>特別な支援を必要とする子どもの理解。そして自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うための知識や支援方法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会的資源や関係機関についての知識や個別の支援計画について等、保育士として支援に必要な内容を学ぶ。また、単元修了ごとに振り返りを行い、より理解を深めていく。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>様々な障害の理解をもとに個別性・計画の重要性や連携する意義を理解する。 併せて、集団生活での配慮事項・保護者への支援等についての実践力を身に付ける</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 特別な支援を必要とする子どもの理解（保育現場を通して）
- 2 特別な支援を必要とする子どもの理解（保育環境を通して）
- 3 発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち
- 4 子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び
- 5 視覚障害、聴覚障害等、様々な障がいのある子どもの特性について
- 6 知的障害、肢体不自由、病弱等、様々な障がいのある子どもの特性について
- 7 子どものニーズに合わせた支援
- 8 チームによる組織的支援の重要性（外部との連携と協働）
- 9 個別の指導計画とは
- 10 保護者・家庭をとりまく問題
- 11 保護者・家庭とのつながりの重要性
- 12 保育士としての保護者・家庭への対応・支援とは
- 13 事例を通して学ぶ
- 14 事例を通して学ぶ
- 15 まとめ

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
試験・実技・授業態度等

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの理解と援助		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 本堂 敦
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2学年	必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子どもの発達の理解を通して、人的環境としての保育者の役割、養護と教育の一体的展開に結び付ける。また、集団における一人ひとりの理解の重要性と、それを踏まえた保育環境の整備について考察する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>事例考察・ロールプレイングを用い、様々な場面での保育者の役割について理解を深める。また、グループワーク等により、子ども・保育者・保護者の立場に立った見解を考察する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 子どもの実態に応じた発達や学びの把握
- 2 子どもの実態に応じた発達や学びの把握
- 3 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- 4 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- 5 子どもを理解する視点
- 6 子どもを理解する方法
- 7 子どもを理解する方法
- 8 子どもの理解に基づく発達援助

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

試験・実践・授業態度

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの保健		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 保川 香奈
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子どもの成長発達の特徴を理解し、その過程でおこる心身の疾病を理解する。保育における安全管理について理解するとともに、関係機関との連携についても学ぶ。また、子どもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの発達、成長の特徴を理解し、健康課題や日常保育の中でおこる事象に対して対応できるように学習する。また、子どもの疾病について具体的な対応や支援のあり方を学習する。併せて、近年特に問題視されている虐待の早期発見や対応についても学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 子どもの心身の健康と保健の意義（生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的）
- 2 子どもの心身の健康と保健の意義（健康の概念と健康指標）
- 3 子どもの心身の健康と保健の意義（現代社会における子どもの健康に関する現状と課題）
- 4 子どもの心身の健康と保健の意義（地域における保健活動と子ども虐待）
- 5 子どもの身体的発育・発達と保健
- 6 子どもの身体的発育・発達と保健
- 7 子どもの身体的発育・発達と保健
- 8 子どもの心身の健康状態とその把握（健康状態の観察）
- 9 子どもの心身の健康状態とその把握（心身の不調等の早期発見）
- 10 子どもの心身の健康状態とその把握（発育・発達の把握と健康診断）
- 11 子どもの心身の健康状態とその把握（保護者との情報共有）
- 12 子どもの疾病の予防及び適切な対応（主な疾病の特徴）
- 13 子どもの疾病の予防及び適切な対応（主な疾病の特徴）
- 14 子どもの疾病の予防及び適切な対応（子どもの疾病の予防と適切な対応）
- 15 子どもの疾病の予防及び適切な対応（子どもの疾病の予防と適切な対応）

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

試験・レポート・授業態度

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの食と栄養		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 山田 智美
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人が動物としてまた、人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解する。その上で、それを暮らしの中にどのような具体的形で、子ども達に伝えていくのかということを理解し考え、身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト等だけではなく、より広い視点から子どもの食と栄養について理解し、実践力を身に付ける。 2. 普段からあらゆる視点で子どもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身に付ける。 <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活に関わる問題点を把握し、栄養教育（食育）の意義や実践について理解する。 2. 幼児期の心身の発達を理解し、食生活・間食の意義や注意点について理解する。 3. 食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解するとともに、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解
- 2 食事摂取基準、献立作成および食品についての理解
- 3 ライフステージ毎の子どもの発育発達と食生活についての理解
- 4 子どもの食生活の現状と課題についての理解
- 5 食育実践のための基礎知識
- 6 保育所保育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備
- 7 特別な配慮を要する子どもへの対応と支援
- 8 特別な配慮を要する子どもへの対応と支援
- 9 子どもの発育・発達と食生活 1) 離乳期
- 10 子どもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期
- 11 子どもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期
- 12 生涯発達と食生活
- 13 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容
- 14 地域の関係機関や職員間の連携
- 15 食生活指導及び食を通じた保護者への支援

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
保育園における食事の提供ガイドライン
「子どもの食と栄養」萌文書林

[単位認定の方法及び基準]

試験やレポート・実技への取組
グループワークの取組など)

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもと遊び		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年		選択必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>乳幼児期の子どもの発達の特性と遊びの関係性を考えることにより、より良い遊び環境をどのようにデザインするか実践的に学ぶ。また、子どもの興味・関心や発達を促す遊びについて考え、発達段階に応じた遊びの計画を立てることができることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもが遊びの中で人と関わる力や思考力・感性や表現する力を育むためにはどのような活動があるかなど、保育者としてその遊びの重要性を理解し、実践的を通して活動を計画できるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の心身の発達と遊びの関わりについて理解し説明できる。 2. 1年次学びと実習を通して、各年齢に適した遊びの重要性を学ぶ。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 実習の振り返り（遊びを通しての学び）
- 2 3歳児の保育と遊び
- 3 4歳児の保育と遊び
- 4 5歳児の保育と遊び
- 5 同年齢保育での遊び
- 6 異年齢保育での遊び
- 7 遊びの実践例を作成
- 8 実践を通して学ぶ（発表・評価）

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

実践・授業態度

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 健康（保育内容演習）		授業の種類 演習 （講義・演習・実習）		授業担当者 田中 由佳
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15（1）	配当学年・時期 2学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1年次の学習と実習を踏まえ、保育所保育指針領域「健康」を理解し、子どもの健康・安全・基本的な生活習慣の確立の重要性と適切に対応できることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>テキストの内容・実践を踏まえ、単元ごとに事例についてのロールプレイ・グループ討論・発表を取り入れ、理解を深める。併せて子どもの個々の健康状態を評価する能力を養う</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「遊び」の概念を理解したうえで、こどもの「遊び」の発達について理解する。 2. 乳幼児期から児童期にかけての運動発達について理解する。 3. 伝統的行事や園における年間行事を学ぶ。 4. 虐待について理解を深め、いのちの大切さを育む保育を考える力を養う。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 「遊び」の重要性
- 2 「遊ぶ」ことを学ぶ
- 3 運動遊び①
- 4 運動遊び②
- 5 模擬保育提案（指導案・模擬保育・ふりかえり）
- 6 伝統行事と園行事
- 7 安全教育と安全管理
- 8 虐待といのちの教育

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

「保育者をめざすあなたへ 子どもと健康」

みらい

幼児期における運動発達と運動遊びの指導

ミネルヴァ書房

[単位認定の方法及び基準]

レポート・実技・

グループワークの取り組みなど

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 環境（保育内容演習）		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 土田 和美
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1年次の学びを踏まえ、養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている内容の概要から乳幼児期の教育・保育における基礎的な知識と技術の理解、習得を目指す。テキスト・事例等を読み込みながら、子どもがどう主体的・自発的に身近な環境に関わることで遊びや活動につながっていくのか、保育者として子どもにとってより良い環境構成・再構成とは何か、果たすべき役割とは何かについて考える。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>子どもは周囲の環境から多様な影響を受け様々なことを学んでいく。そこで「ひと・もの・こと」をはじめとした、子どもを取り巻く環境について理解を深めていくとともに、子どもの身近な環境について考え、環境を通して行う保育について学ぶとともに、子どもへの最適な社会環境を追及する。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 子どもの身近な環境：物的環境と関わって遊ぶ
- 2 子どもの身近な環境：自然を取り入れて遊ぶ ～自然の特性を活かして～
- 3 子どもの身近な環境：生き物とのかかわりを通した子どもの遊び
- 4 子どもの身近な環境：文字や標識、数や図形への関心
- 5 子どもの身近な環境：生活の中での情報に興味や関心を持ち遊びへとつなげる
- 6 海外における保育環境と現代社会における課題と子どもを取り巻く環境
- 7 子どもの遊びの世界における「3間」の意味・室内環境・室外環境
- 8 保育者の役割・現状と課題（小学校との連携など）

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

試験・授業態度など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 表現（保育内容演習）		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 奥田 祥恵
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育にあたって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助・関わり 2 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助・関わり 3 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助 4 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助 5 保育所保育指針に示す1歳以上3歳以上児の保育における「表現」の領域 6 保育所保育指針に示す1歳以上3歳以上児の保育における「表現」の領域 7 保育所保育指針に示す1歳以上3歳以上児の保育における「表現」の領域 8 保育所保育指針に示す1歳以上3歳以上児の保育における「表現」の領域 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係（保育内容演習）		授業の種類 演習 （講義・演習・実習）		授業担当者 本堂 敦
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15（1）	配当学年・時期 2学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性をもつ事を理解し総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1年次の学を踏まえ、保育者としてどのように子どもの人とのかかわりを育てていくのか保育者として子どもとどのような関係性を築いていくのか、子ども—養育者、子ども—保育者、保育者—養育者、さらには保育者—保育者という様々な関係について考察していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」におけるねらいと内容について理解を深めるとともに、生活場面における幼児の様々な「人とのかかわり」とその育ちについて学んでいく 2. 保育の場で、一人ひとりが大切にされ、またお互いが豊かなかかわり合いがもてるような集団を形成するには、どのような課題があるのかを、保育における人間関係を様々な側面から考察し、現場での実践やその振り返りの際の幅広い視点を心得る事を目標とする。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 乳幼児期の発達と領域「人間関係」・信頼関係の基盤
- 2 「協同する経験」の教育的意義と保育者の援助・小学校との連携
- 3 幼児を取り巻く人間関係—地域社会の役割・保護者支援・子育て支援
- 4 個と集団の育ち・協同性を育む・規範意識と道徳性の芽生えについて
- 5 人とのかかわりを育む保育現場の今日的課題
- 6 子どもと保育者の信頼関係 遊びの中の人とのかかわり
実技・グループワーク・指導案作成
- 7 子どもと保育者の信頼関係 遊びの中の人とのかかわり
実技・グループワーク・指導案作成
- 8 「人間関係」の授業から理解できたこと（感想・考察）発表

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
「事例で学ぶ保育内容領域人間関係」
萌文書林

[単位認定の方法及び基準]

試験・実技・グループワーク
発表など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 自然遊びと表現		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 伊藤 寛子
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と自然における体験を保育の環境として捉えた、知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習体験・1年次の学びを通し、子どもの生活と自然との関わりから、遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。身近な環境に触れながら、子ども達にどのような遊びが考えられ、どのような事を育むのかを理解する。また、動植物との関わり方や四季折々の自然に触れ、自らの五感を研ぎ澄ます。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。併せて、自然に触れ、五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触る）をフルに活用し、綺麗な景色を見て感動したり、鳥の鳴き声や川のせせらぎを聞いて癒されたり、旬の物や自分がとった物を食べておいしいと感じたり、花や植物の匂いを嗅いで癒されたり、危ない物に触り痛みを経験することで危険を回避できたりなどの様々な経験を通して、情緒豊かな保育者としての質の向上を目指し ねらいを持った自然遊びの実践を身に付ける。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 身近な自然と関わる中でイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識及び技術を学ぶ
- 2 身近な自然と関わる中でイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識及び技術を学ぶ
- 3 四季折々の自然から学ぶ
- 4 実習を通して学んだ自然遊びについて（意見交換・グループワーク）
- 5 自然を学ぶ（自然生態系・在来種・外来種など）
- 6 自然を学ぶ（地球の資源・環境問題など）
- 7 自然を学ぶ（バイオ・トープなど）
- 8 四季折々の自然から学ぶ

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

実技・試験

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 表現とこどもの言葉		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 川野 千枝
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2学年	必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 子ども達の生活に組み入れられている文化について、その歴史、内容などを理解し、豊かな育ちゆく子どものために好ましい文化のあり方を理解することを目的とする。 保育現場で使用される文化財の中で、言語に関わる教材を取り上げ、それらが子ども達の生活の中で経験と深く関係していることを理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>理論を踏まえた上で、保育の場において役に立つ技術を身に付ける事と、子ども達が文化によって夢や希望を与えられるだけではなく、自らが文化を創り出す活動や表現ができるようにすることも視野に入れ学習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 絵本、紙芝居、劇遊びなど保育現場で使用される子どもの文化財の持つ意義が理論的に理解できる。 保育の現場で使用される文化財についてその内容及び保育技術が獲得できるようにする。 絵本、紙芝居等から子どもの情緒を豊かに育てることの意義・意味を認識できる。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 <こどもと文化のかかわり 1> 意義、歴史、内容、文化活動
- 2 <こどもと文化のかかわり 2> 成長・発達と遊び、玩具
- 3 <伝統文化> 意義、折り紙の基礎、五節句の歴史、意義
- 4 <絵本 1> こどもの絵本、絵本の種類、選び方、読み聞かせの方法と留意点
- 5 <視聴覚教材について> テレビ、ゲーム、コンピューターの効用と課題
- 6 <紙芝居> 歴史、特徴、作成の仕方
- 7 <お話> 意義、選び方、歴史、語り聞かせの方法と留意点
- 8 <お話> 各国の作品、特徴

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

試験・提出物・実技など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 音楽表現		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 大桃 香里 木村 香鈴	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年		必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>歌唱、ピアノ奏法及び弾き歌いを中心に学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>実習や就職を意識し、実践に活かせる実力をつける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ピアノ初歩練習曲の課題 3 課題曲決め 4 課題曲の練習 5 課題曲の練習 6 課題曲の練習 7 課題曲の練習 8 課題曲の練習 9 プレテスト 10 声楽（理論） 11 声楽（理論） 12 声楽（実践） 13 声楽（グループ発表） 14 試験に向けて 15 実技発表 					
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 造形表現		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 松平 康生
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>基本的知識・技術の習得とスキルアップ</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>課題ごとに目標となる習得技術・技法を織り込む。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>自らが表現すること・創造することの喜びを体験・実感する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 造形表現の意義・ファイリング 2 ドリッピング 3 こいのぼり 4 こいのぼり 5 はじきえ 6 スクラッチング 7 レタリング 8 七夕制作 9 七夕制作 10 壁面制作 11 壁面制作 12 クリスマスカード 13 正月遊び 14 節分 15 ひな人形 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 保育をひらく造形表現			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 身体表現		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 荒井 佑太
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>こどもの運動あそびは、訓練的にならず子どもたちが能動的に取組み、多くの体験ができるような環境を設定することが大切である。多くの運動あそびを習得し、年齢や環境に応じた指導ができるとともに、子どもの発育発達に即した運動あそびの指導法を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>こどもの運動あそびの必要性を発育発達の面から理解しながら、安全に楽しく運動あそびを展開するための指導方法と援助の仕方を学ぶ。</p> <p>運動あそびを考え発表・体験する。固定遊具、鬼ごっこ等について研究を深め、子どもたちが安全に楽しく運動あそびを展開するための指導法と援助の仕方を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動あそび（集団遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び）を考案し指導ができる。 2. 遊具の安全性について認識を深め、子どもたちが安全に遊べる指導ができる。 3. こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動あそび（野外でのグループ・集団遊び・固定遊具（鉄棒）遊び、鬼ごっこ遊び等）が考えられ指導できるようになる。 4. 運動あそびの指導法や必要な知識を習得する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 子どものからだと運動の発達特徴
- 2 幼児期の運動と教育的意義
- 3 運動や表現の基礎となるもの
- 4 子どもの身体表現の意義と特徴
- 5 模倣と即興、イメージ
- 6 リズム遊びが育むもの
- 7 基礎的運動（歩・走・跳・押・引・転・登・投）
- 8 触れ合い遊び
- 9 大型・小型遊具を使った遊び
- 10 工夫する遊び（新聞紙・タオル・バンダナ等）
- 11 模倣・いろいろな動きをしてみよう
- 12 からだを使ってお話しよう
- 13 心が躍るリズムダンス
- 14 行事としての表現（行事として行うことの意味・企画と演出）
- 15 グループごとの運動あそびの実践

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針（フレーベル館）
認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）
運動あそび・表現あそび 指導法を身につける理論と実例（大学図書出版）

[単位認定の方法及び基準]

実践活動・科目試験等により
判定し評価する

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 音楽表現Ⅱ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 大桃 香里 木村 香鈴	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 選択必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育内容に沿って、こどもの音楽表現活動を援助し、子どもの成長過程における豊かな人格形成を育成することをテーマに学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育現場で必要な音楽表現を豊かにするための音楽的知識を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とする。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ピアノ実技レッスン授業としてのガイダンス 2 課題曲決め 3 課題曲練習 4 弾き歌い実践 5 弾き歌い実践 6 弾き歌い実践 7 教科書の学習 8 実技発表 					
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 こどもと音楽表現			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 造形表現Ⅱ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>造形表現指導に関する技術の習得。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実践に結びつけて考え、行動ができるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>素材・教材の理解を深め、応用・展開する能力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題制作の中で、手作業・道具使い等により基本技術を習得する 2 課題制作の中で、手作業・道具使い等により基本技術を習得する 3 課題制作の中で、手作業・道具使い等により基本技術を習得する 4 演習の目的が「子ども達のためである」ことを忘れずに、考えながら制作する 5 演習の目的が「子ども達のためである」ことを忘れずに、考えながら制作する 6 演習の目的が「子ども達のためである」ことを忘れずに、考えながら制作する 7 演習の目的が「子ども達のためである」ことを忘れずに、考えながら制作する 8 同じ素材でも、使い方によって可能性は無限であり表現の手段であることを理解する 9 同じ素材でも、使い方によって可能性は無限であり表現の手段であることを理解する 10 同じ素材でも、使い方によって可能性は無限であり表現の手段であることを理解する 11 同じ素材でも、使い方によって可能性は無限であり表現の手段であることを理解する 12 卒業制作においては、教材としての作品を制作する 13 卒業制作においては、教材としての作品を制作する 14 卒業制作においては、教材としての作品を制作する 15 卒業制作においては、教材としての作品を制作する 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 手話		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 横手さおり
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>手話の基礎となる手や体を使って伝え合うことを学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>手話を読み取り、グループで話し合い、会話の練習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>ろう者・手話について理解を深める。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ろう者・手話について、ウォーミングアップ、挨拶 2 色、指文字（50音） 3 トピック（名前） 4 トピック（年齢・誕生日） 5 トピック（家族） 6 トピック（趣味） 7 トピック（復習・会話） 8 テスト範囲の学習・振り返り 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 新・手話教室—入門過程			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育実習		授業の種類 実習 (講義・演習・実習)		授業担当者 川野 千枝
授業の回数	時間数(単位数) (160) 4	配当学年・時期 2年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 理論と実践の具体的相互関係を学び、教育者・保育者としての在り方を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園教諭としての職務を理解し、教育現場での実践を通して教員としての資質能力、実践的指導を体得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 日々、実習を振り返りながら、実習の内容を実習日誌に記し、それを基に次の準備を行う</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>●実習の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだ知識や技能を基盤に、幼稚園教諭としてのサービスを理解する。 ・教育や保育を試み、幼稚園教諭としての資質能力の基盤を体得する。 <p>●実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配属クラスにおいて教育や保育を行う ・指導案や教材等を作成し、それを基に教育や保育を試みる ・教育や保育を振り返り、教材観や幼児観や指導観を形成する。 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 実習先からの評価票	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 環境論		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 土田 和美
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>自らが、身近な環境にかかわる力を育て、乳幼児が身近な環境に関わり、生活や遊びに取り入れる姿をしっかりと捉える。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育における環境の捉え方、援助について実践事例を中心に学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>身近な自然環境、社会的環境に自ら関心を持ち、保育における方法や展開について考える</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境とは 2 ねらいと内容の意味 3 実践事例 4 実践事例 5 製作と環境 6 環境の留意点 7 環境のねらいと内容 8 まとめ 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教職実践演習		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 本堂 敦	
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年		必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>自己の課題が何であるか、現時点で不足しているものは何か見定め、補いながらその定着を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>演習の中で理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>教職課程の科目や教職課程外での様々な活動を通じて得た力を、資質能力として身につける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教師という職業 2 教職の意義 3 教師に求められる資質と能力 4 学級経営 5 特別支援教育の基礎 6 特別支援教育と教師・保育者 7 保育における集団の編成 8 幼保小連携 					
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 保育・教職実践演習			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 課題研究		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 門脇 ひとみ
授業の回数 8	時間数(単位数) (15) 1	配当学年・時期 2年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行いより実践的な知識や技術の習得を目指す。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>自分の課題を発見し、探究する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題発見について 2 課題研究と方法について 3 資料の探し方 4 グループ討議 5 グループ討議 6 グループ討議 7 グループ討議 8 グループ討議 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 乳児保育Ⅱ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 佐藤 領子
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児の発達を理解し、保育者として必要な援助の方法や技術を身に付ける 2. 保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の乳児保育の取扱いについて理解を深める。 3. 乳児保育の現状と役割、援助について具体的に理解できる。 4. 乳児保育における計画の作成の必要性・配慮すべき事項について理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳児保育の歩みと現状、乳児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解する。また、健康・安全に留意した保育環境について学びを深めるとともに、乳児に適した遊び等の実践を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 乳児保育の現状
- 2 乳児の生活と遊び、環境づくり
- 3 乳児の理解、援助の実際
- 4 集団保育における安全と健康
- 5 乳児保育の発達と保育内容
- 6 保育課程に基づく指導計画
- 7 乳児保育における連携と地域子育て支援
- 8 乳児保育の課題

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

試験・実技など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの健康と安全		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 田中 千鶴
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>こどもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学び、実践能力を高める。さらに、事故や感染症等の健康安全管理について理解し、予防対策の取組についても理解する。また、日常的にかかりやすい病気について、具体的な対処法や予防について学ぶ。併せて、健康・安全管理の体制についても学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。また、子どもの疾病について具体的な対応や支援の仕方を実践を通して学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン（教育・保育施設等における感染症対策ガイドライン等）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 2. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 3. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、実践を通して理解を深める。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育における保健的対応の基本的な考え方
- 2 3歳児未満児への対応と実践
- 3 個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）
- 4 障がいのある子ども・虐待が疑われる子どもへの対応の理解と実践
- 5 事故防止・災害への備えと組織的な取り組み
- 6 健康及び安全の管理の実施体制
- 7 実習から学んだ安全管理と保育士の対応について（グループワーク・発表）
- 8 振り返りとまとめ

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
2018改訂版保育所における感染症対策ガイドライン

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
試験・グループワークの取り組み
実技など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害児保育		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 佐藤 領子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 4. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 5. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>近年、保育における障がい児へのニーズが高まっている。それを踏まえ障がい児の種類や障がい児の特性、障がい児に対する保育方法等、障がい児を保育する際に必要な基本的知識を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がいのある子どもについて理解し援助の方法、環境構成等について理解する 2. 障害のある子どもやその家族に対する援助方法を理解する。 3. 保育全体の中で障がい児を捉え、過程、職員、関係機関と連携して保育する方法について理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷
- 2 障がい児保育の基本
- 3 肢体不自由、視覚・聴覚障害児の理解と支援
- 4 知的障がい児の理解と支援
- 5 発達障がい児（ADHA、LD）の理解と支援
- 6 発達障がい児（ASD）の理解と支援
- 7 障がいのある子どもの家族の理解と支援
- 8 障がいのある子どもの記録及び評価と計画作成
- 9 障がいのある子どもへのコミュニケーション支援
- 10 個々の発達を促す生活や遊びの環境
- 11 子ども同士のかかわりと育ち合い
- 12 職員間の協働
- 13 地域の専門機関や小学校との連携
- 14 保健・医療・福祉・教育における現状と課題
- 15 障がいのある子どもの支援の場の広がりつつながり

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針解説書
認定こども園教育・保育要領解説
障害児保育（新版）北大路書房

[単位認定の方法及び基準]

試験・レポートの評価基準など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会的養護Ⅱ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 門脇 ひとみ
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会が子どもを育む意義と課題を認識し、専門職としてその中核を担う自覚を持つ。 2. 施設養護に対する的確な認識を深め、子ども達や保護者への対応を実践的に学ぶ。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>望ましい保育者となるために、社会的養護に関する基本的な知識、専門性、人間性として身に付けなければならないこと等について学ぶ。また、社会的養護の課題や内容（処遇等）に関する基本的な知識および技術について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 社会的養護の内容（子ども理解・日常生活支援）
- 2 社会的養護の内容（治療的支援・自立支援）
- 3 社会的養護の実際（施設養護の生活特性および実際）
- 4 社会的養護の実際（家庭養護の生活特性および実際）
- 5 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
- 6 社会的養護に関わる専門的技術
- 7 社会的養護に関わる専門的技術
- 8 今後の課題と展望

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

試験・授業態度

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子育て支援		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 森田 由美子
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の意義や基本について理解する。 2. 子育て支援の内容・方法・実際について理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育士として学んできた事、実習を通して学んだ事等を踏まえ、子育て支援について考察し実践する。その際に、保育の知識及び技術を使って子どもの最善の利益を守るために行われる保護者支援について、保護者や子どものおかれている現状を把握し、的確な保護者支援のあり方を演習を通して具体的に学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領より子育て支援を学ぶ
- 2 保育士の行う子育て支援の特性
- 3 保育士の行う子育て支援の特性
- 4 保育士の行う子育て支援の展開
(子ども・保護者の状況の把握・支援の計画と環境構成等)
- 5 保育士の行う子育て支援の展開
(支援の実践・記録・評価・カンファレンス、職員間の連携)
- 6 保育士の行う子育て支援とその実際 (内容・方法・技術)
- 7 保育士の行う子育て支援とその実際 (内容・方法・技術)
- 8 保育士の行う子育て支援とその実際 (内容・方法・技術)

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
実践態度・試験

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習 I		授業の種類 実習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
保育所実習 2 単位 施設実習 2 単位	時間数(単位数) 160 (4)	配当学年・時期 2 学年	必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 				
[実習内容の概要]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・認定こども園において、観察実習・参加型実習・担当型（指導型）実習の経験を通し、子どもとの関わり、保育士の業務内容、保育所・認定こども園の役割等を理解する。 併せて、日誌・指導案の書き方を学び、記録の重要性・必要性を理解する。 2. 保育所以外の児童福祉施設・障がい者支援施設において、施設の生活リズムを知り、入所者又は通所者の生活を理解する。併せて、福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について理解し、利用者一人ひとりの個性を観察し、対応を学ぶ。 				
[授業修了時の達成課題（到達目標）]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校で学んだ諸理論を現場に応用し具体的に実践、研究する。 2. 生活に参加し、実習施設についての理解を深める。また、子ども（利用者）の観察や関わりを通して子ども（利用者）のニーズを理解する。 3. 保育士としてチームワークや子ども（利用者）への配慮など課題意識を持ち、意欲的態度を確立する。 				

< 保育所実習の内容 >

- 1 保育所の役割と機能
- 2 子どもの理解（発達理解・援助や関わり）
- 3 保育内容・保育環境
（保育の計画に基づく保育内容・生活や遊び・健康と安全）
- 4 保育の計画・観察・記録（日誌・指導案・考察など）
- 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理

< 児童福祉施設等（保育所以外）における実習の内容 >

1. 施設の役割と機能
2. 子ども理解（発達理解・援助や関わり）
3. 施設における子どもの生活と環境
（計画に基づく活動や援助・心身の状態に応じた援助・活動と環境など）
4. 計画と記録（支援計画の理解と活用・記録に基づく省察・自己評価）
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

日誌・指導案・実習態度・評価票など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅰ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2学年		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 2. 次週の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 3. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習の意義を理解し、学校での今までの学びを使いながら、どのように子どもを支援していくか演習を通して考える。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を立てる。また、保育指導案の書き方、実習簿の書き方を理解し実習に備える。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行ない、新たな課題や学習目標を設定する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育実習の意義・目的、児童福祉施設の役割について理解できる。実習後は、実習の振り返りと自己評価を行ない、次の実習課題や学習目標を設定できる。 実習の流れや実習の留意点を学ぶとともに、実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身に付ける。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 プライバシーの保護と守秘義務など保育者の倫理
- 2 実習の目標や実習課題の設定
- 3 各年齢に応じた指導計画を立てる
- 4 各年齢に応じた指導計画を立てる
- 5 各年齢に応じた指導計画を立てる
- 6 指導計画に必要な研究教材の準備・作成
- 7 実習後の反省・評価、お礼状等の作成
- 8 実習の総括と自己評価を通して新たな課題や自己目標を明確にする

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
幼稚園保育所実習パーフェクトガイド わ
かば社
施設実習パーフェクトガイド わかば社

[単位認定の方法及び基準]

試験・授業態度・実習事後の取組など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅱ		授業の種類 実習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数	時間数(単位数) 80(2)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習における自己の課題を明確化する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能の具体的展開 2 保育所の役割や機能の具体的展開 3 保育所の役割や機能の具体的展開 4 観察に基づく保育の理解 5 観察に基づく保育の理解 6 観察に基づく保育の理解 7 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 8 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 9 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 10 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 11 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 12 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 13 保育士の業務と職業倫理 14 保育士の業務と職業倫理 15 自己の課題の明確化 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅲ		授業の種類 実習 (講義・演習・実習)		授業担当者 伊藤 寛子	
授業の回数	時間数(単位数) 80(2)	配当学年・時期 2学年		必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭支援、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>実習における自己の課題を理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 3 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 4 施設における支援の実際 5 施設における支援の実際 6 施設における支援の実際 7 施設における支援の実際 8 保育士の多様な業務と職業倫理 9 保育士の多様な業務と職業倫理 11 保育士の多様な業務と職業倫理 12 保育士としての自己課題の明確化 13 保育士としての自己課題の明確化 14 保育士としての自己課題の明確化 15 保育士としての自己課題の明確化 					
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの保育及び保護者支援について統合的に学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 保育士の業務内容や職業理論について具体的な実践に結びつけて理解する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 2 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 3 子どもの状態に応じた適切な関わり 4 子どもの状態に応じた適切な関わり 5 子どもの状態に応じた適切な関わり 6 保育の全体計画に基づく保育の改善 7 保育の全体計画に基づく保育の改善 8 実習の総括と自己評価 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 伊藤 寛子
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの保育と保護者支援 2 子どもの保育と保護者支援 3 保育の知識・技術を活かした保育実践 4 保育の知識・技術を活かした保育実践 5 保育の知識・技術を活かした保育実践 6 保育の知識・技術を活かした保育実践 7 課題の明確化 8 課題の明確化 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実践演習		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 齊藤 茜
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術・総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。保育者としての生活を円滑にスタートできるよう、保育現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育所において特に重要な学習知を確認して、より実践的な保育士の養成をはかる併せて、学習知と実践知を統合して実践的指導力を身に付け、保育者としての意欲を醸成する。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育者の役割と課題
- 2 現代の子どもの特徴と課題/子どもの遊びの変化と現状
- 3 子どもの見方・捉え方/子どもにどのように働きかけたらよいか
- 4 保育者に求められるもの
- 5 保育実習の振り返り（評価から深める学び）
- 6 保育実習の振り返り（学生同士による経験の共有）
- 7 幼児教育行政の課題
- 8 現代社会における幼児教育の問題点
（特別な配慮を必要とする子どもたち・多文化共生保育）
- 9 現代社会における幼児教育の問題点
（子どもを取り巻く食育の実情・子どもの体力低下）
- 10～13 保育に関する現代的課題の分析に基づく研究
グループワークや研究発表、討論等により、保育に関わる今日の社会的状況等の課題について自ら問いを立て、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法等について検討する。
- 14 これまでの授業内容を踏まえて、自身の習得した知識・技術等と保育に関する現代的課題等から、自己の課題を把握する。
- 15 目指す保育士像や今後に向けて取り組むべきこと及び具体的な手段や方法等を明確化する

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
[新版]保育・教職実践演習
—保育理論と保育実践の手引き—
大学図書出版

[単位認定の方法及び基準]

試験・レポート・発表態度など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 一般教養		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 門脇 ひとみ
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>一般的に必要な語句やルールを理解してく。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>仕事を処理するために必要な知識やビジネスマナーを身につけ、自ら築いた人間関係を良好に保つために必要なコミュニケーション能力を習得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会人にふさわしい言葉遣い 2 交際業務・会議 3 文章類の受け取りと発送・他 4 保育士としての自覚とは 5 保護者への対応と言葉遣い 6 他職種と連携の取り方・関わり方 7 ストレスとストレス耐性 8 社会の一員として 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 伊藤 寛子
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] コミュニケーションの大切さや役割の理解と、基本的な技術を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育の現場や保護者に応じたコミュニケーションの知識と態度を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 子ども・利用者・保護者を支援するためのコミュニケーションの知識と技術について学び 具体例を通して学習を行うことで福祉・教育の現場で活用することができるようになる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションとは 2 保育者のマナーと心配り（事例を通して） 3 保育者のマナーと心配り（事例を通し） 4 子どもとのコミュニケーション技術（事例を通して） 5 子どもとのコミュニケーション技術（事例を通して） 6 保護者とのコミュニケーション技術（事例を通して） 7 保護者とのコミュニケーション技術（事例を通して） 8 チームとしてのコミュニケーション 				
<p>[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 保育者のちょっとしたマナーと心配り（学陽書房） 保育者だからできるソーシャルワーク（中央法規） 保護者の質問こたえ方ブック（学研）</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p>	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生物と環境		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 齊藤 茜
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2 学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 自然生態系について考え、自然生態系の保護に必要な認識を持つ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 自然の価値と役割について必要な知識と習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 自然生態系の仕組みや保護に必要な認識を理解する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然生態系の保護・回復のための基礎知識 2 自然生態系破壊の現状 3 自然の価値と役割について 4 生物多様性と保全生態学 5 水・大気・土壌をめぐる環境 6 地下資源について 7 自然生態系を守るための法制度 8 持続可能な社会にむけて 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 環境を守る最新知識			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	